

位置づけられる場合がある。この場合には、統計的解析により算出される部分係数を用いた照査とは異なることを明示するため、全ての部分係数を便宜上1.0とした上で、調整係数を用いて照査することができる。調整係数は、「過去の経験に基づく方法」によって規定される安全性の水準と同等の構造断面になるように調整するための係数であり、従来の安全率法や許容応力度法における許容安全率に対応する値である。なお、調整係数は、H19基準・同解説において構造解析係数で処理されていたものに相当する。

【参考文献】

- 1) ISO 2394 : General principles on reliability for structures, 2015.
- 2) 国土交通省：土木・建築にかかる設計の基本, 2002.
- 3) 土木学会：土木構造物共通示方書（基本編／構造計画編）, 2016.
- 4) 土木学会：土木構造物共通示方書（性能・作用編）, 2016.
- 5) 地盤工学会：性能設計概念に基づいた基礎構造物等に関する設計原則（地盤工学会基準JGS4001-2004）, 2006.
- 6) 長尾 毅：相関を有する波浪・風作用の組み合わせ方法に関する研究, 国土技術政策総合研究所報告No.48, 2011.
- 6-1) 宮島正悟, 竹信正寛, 三上康光, 宮田正史：気候変動に伴う作用条件の変化に対する既存防波堤の応答曲面法を用いた改良設計手法, 土木学会論文集, 2023.
- 6-2) 小林怜夏, 竹信正寛, 本多和彦, 蒔苗嘉人, 村田誠, 気候変動適応策を踏まえた防波堤の設計手法に関する検討, 国土技術政策総合研究所資料, No.1281, 2024（予定）
- 7) 星谷 勝, 石井 清：構造物の信頼性設計法, 鹿島出版会, 1986.
- 8) 竹信正寛, 西岡悟史, 佐藤健彦, 宮田正史：荷重抵抗係数アプローチによるレベル1信頼性設計法に関する基礎的研究～永続状態におけるケーソン式岸壁の滑動及び転倒照査を対象に～, 国総研資料No.880, 2015.